

地域図書館との連携

読書・言語活動充実を支える環境づくり

新宿区立四谷中学校 編



連携1 読書センターとしての環境づくり

① 図書室の整備

区から派遣される新宿区子ども図書館と、地域協働学校の取り組みの一つである四谷図書館との協働を今年度から実施、図書館スタッフおよびかねてから協力関係にあるNPO法人「としょかんクラブ」の協力を得て、蔵書の整理や書架の整理をすすめた。結果、狭い部屋でありながら機能的な図書環境に近づいている。

② 新刊書の紹介

渡り廊下を活用、生徒が教室棟から特別教室棟へ移動する際、図書室へ興味を誘導できるよう、ブックカードや新刊紹介、読書紹介を平面（ポップアート）・立体を交え、図書館の職員と図書委員がいっしょに展示を工夫している。

連携2 読書習慣を支える環境づくり

① 朝読書の推進

本校では今年度から朝読書を週時程に位置付け、毎朝10分間読書を進めている。読んだ記録をつけ、自分の読書の道のりを振り返ることができるようにしている。また、廊下に読んだ本の紹介を掲示、生徒は自分が次にどの本を読もうか、と興味・関心をもって眺めている。学級には「朝読書文庫」の箱を置き、中学生に読んで欲しい本を担当が常に補充している。このような取り組みの結果、生徒が読書に取り組む意欲に向上が見られ、読む姿勢もよくなってきた。

② ブックトーク

朝読書の時間を活用して、地域の図書館に月1回、ブックトークを依頼している。学年ごとに行い、3学級それぞれを1名の司書担当し、同じテーマで話してもらっている。紹介された図書が図書館にあるか、見に来る生徒が増加した。

③ すずかけ文庫

地域に学校応援団があり、生徒の言語活動支援の一端として、自由文庫を設置してくれた。「中学生に読ませたい本」「自由に手にとって見てよい本」を条件に、寄付を募り、学校図書館の廊下に、手作りの書架ができた。自由に手にとり、家に持ち帰ってもよい。学校で購入する図書とは違う観点の図書が多く、書架の前に座り込んで本を選ぶ楽しさを味わう生徒も見られる。



地域による廊下の文庫

連携3 連携のポイントと今後

① ポイント

- ・ 支援者との窓口を担当者に一本化、地域の図書館と普段から情報交換を行い、支援者と図書委員会の活動等の校内活動をつなぎ、学校図書館自体の活性化を図るようにすること。

② これから

- ・ 朝読書の時間を活性化する工夫、学校図書館を情報センターにしていく工夫等をすすめ、生徒会を中心に、外部人材を活用し行きたくなる図書館作り、図書館デザインを実施する予定である。